

## 上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所属・職名 社会系教育実践コース・准教授

氏 名 中平 一義

研究期間 平成29年度～平成30年度

研究プロジェクトの名称	「21世紀型に求められる資質・能力」の理論・実践研究 ～社会科教育における思考力・実践力の育成を目指す教育実践学の探究
研究プロジェクトの概要	これからの社会を見据えて、子どもに育成することが求められる資質や能力について、社会科教育の側面から本学社会科教育学研究室により作成された「21世紀を生き抜くための能力+α」に関わる二つの論文（志村喬・茨木智志・中平一義（2017）「社会科教育における「思考力」の捉え方」, 上越教育大学出版会『「思考力」を育てる－上越教育大学からの提言1』, pp. 45-65. 及び, 志村喬・茨木智志・中平一義（2017）社会科教育における「実践力」の捉え方」, 上越教育大学出版会『「実践力」を育てる－上越教育大学からの提言2』, pp. 35-52）を理論的支柱とし、それらを基にして主に上越地域の小中学校の教員とともに授業開発を行い、実際に授業実践することによりその効果と課題を明らかにする研究である。
研究成果の概要  ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。	本プロジェクトは、本学のプロジェクト研究取組課題の「現代的教育課題の解明や解決に資する臨床的研究, 教育活動の基礎となる教科専門領域の国内外の先導的な研究」の中でも、特に、学校現場が抱えている学力向上や、社会的要請の高い研究や実践的・先導的な研究に対応した研究である。さらに、「21世紀を生き抜くための能力+α」向上に資する研究でもある。本プロジェクトの成果として、以下の①～③の三点があげられる。まず、①「次期学習指導要領及び、その先の教育を見据えた理論及び実践研究の実施」である。これは、上記の取組課題のすべてに関わるものである。具体的に言えば、新学習指導要領で求められる資質や能力について、理論と実践の往還による研究を行うことができたことから①の成果があった。次に、②社会科教育に関して「地域の学校, 附属学校と大学との, 地域臨床的・科学的な協働ネットワークの構築」ができた。地域の学校と大学が連携できたことは、今後の地域と学校との協働による様々な教育研究活動の基盤となる可能性も考えられる。最後に、③「大学における教員養成の改善への示唆」である。大学における社会科教育の教員養成の授業において、何を、どのように学生に理解させていくのかについて大きな示唆を得た。一方で、②のような関係性が構築されたにもかかわらず、プロジェクト研究自体が削減されるとから、これまでの地域協働的な教育研究活動の基盤を揺るがす可能性も否めない。これまでのように、地域の学校との研究プロジェクトができる環境の整備が大きな課題である。
研究成果の発表状況	理論に基づいて作成した授業の検証結果については、2018年11月17日に、上越市高田公園内オーレンプラザにおいて、「社会科教育実践研究発表会」として発表した。なお、上越市教育コラボ2018内での発表であったため、一般市民の参加もあった。また、報告書として冊子にまとめた。
学校現場や授業への研究成果の還元について	最終的にまとめた研究成果報告の冊子（全102ページ）を、上越市、妙高市、糸魚川市、柏崎市内の全公立小中学校及び特別支援学校、及び本学附属小中学校（全145校）に配布した。